



令和8年度長崎県技術士会の総会案内

長崎県技術士会会長 山口和登

令和8年度の長崎県技術士会の総会を6月6日(土)に諫早のホテルセンリュウでの開催を予定しています。令和8年度の総会も審議時間を短くし、かつ多くの会員の参加(意向確認)を図るため、昨年度に引き続き、事前に議案等を送信・送付いたします。欠席者には委任状提出、又は書面での議決権行使をお願いし、総会出席者は通常の対面による審議を実施する予定です。

令和8年度の総会は、下記のように予定しています。

1号議案：令和7年度事業報告、2号議案：令和7年度収支報告及び監査報告、3号議案：令和8年度事業計画(案)、4号議案：令和8年度収支予算(案)、5号議案：長崎県技術士会設立50周年記念事業収支報告及び監査報告 報告事項：創立50周年記念誌に関する報告です。

5月になりましたら総会の案内文、個別議案等を会員各位に送信・送付しますので、総会への出席の可否、欠席の場合は委任状の提出又は議決権の書面での行使を記入の上、返信していただきたいと思ひます。総会成立には会員総数の委任状等を含め、3分の1以上の出席を必要とし、議決には出席者の過半数の議決により成立しますのでよろしくお願ひいたします。

併せて返信時に ① 所属先・所属部所 ② 連絡先(住所・電話番号・Eメール) ③登録部門の追加 ④ その他 変更事項・要望などがございましたらお知らせください。令和8年度の会

員名簿作成、会員名簿の送付作業等の参考にしたと思ひます。事務局のほうでも変更事項については調査いたしますが、情報が限られているため、連絡がない場合、会員名簿は前年度同様の記載内容となりますので、ご了承ください。

ところで昨年度の年会費未納の方が複数名おられますが、年会費が正会員(名誉会員・支部会員を除く)で3,000円、準会員で1,000円と安いため、忘れられている方が大半と思ひます。しかし、3年以上の会費未納の会員は会則に則って自動的に退会となりますので、心当たりの会員はお問ひ合わせください。尚、今年度の総会までに会費納入の方は未納となりませんのでご確認ください。

以上、令和8年度の長崎県技術士会総会の予定、概要等について述べました。尚、当日は日本技術士会長崎県支部年次大会、令和8年度第1回CPD研修会、交流会(合格祝賀会)も併せて予定しております。総会等の詳細が決まりましたら、5月には案内致しますので、会員の皆様の多数の出席を期待しております。総会対面参加が不可能な場合はメール、ファックス、郵送等のような形で結構ですので、1人でも多くの書面での参加も期待しておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

令和7年度長崎県支部工場見学会報告

兒玉技術士事務所 兒玉英治(環境部門)

令和8年2月18日(水)に長崎県支部工場見学会を下記内容で開催したので報告する。

見学場所：日本紙器株式会社

長崎県西彼杵郡時津町日並郷 2 2 3 3

見学時間：午前 1 0 時～ 1 2 時

参加者：1 2 名

【講師】 代表取締役社長 杉本潔氏、常務取締役工場長 樋田興三氏、執行役員総務部長 浜野圭三氏、監査役 村木雅文氏

【説明内容】

1 会社概要

創立年月日：昭和 3 6 年 9 月 8 日（長崎市城山町）。昭和 4 2 年 8 月に、現在地に本社工場移転し、コルゲートマシンを設置し、段ボール一貫工場となる。

資本金：4, 3 0 0 万円

事業目的：段ボール及び紙器を主体とする包装資材の製造加工並びに販売（海外にも輸出）

取扱製品：段ボール製品（シート/ケース）、化粧箱、プラ段製品、テープ類、各種包装資材、衛生用品（トイレ等）、紙製精霊船、遊具等

従業員数：7 4 名

2 代表取締役社長杉本潔氏挨拶

当社は、県内で唯一の貼合工程に使用するコルゲートマシンを所有している会社で、日勤制で操業している。段ボール製造工程で出る古紙はリサイクルしている。

また、工場からでる騒音が大きいため、近隣への影響を抑える目的で隣接する森林を購入した。安全・環境・品質・納期・コストを行動指針としている。

3 企業グループの循環（資源循環の流れ）

(1) 製紙メーカーの「王子マテリア」から原紙を購入し、「日本紙器」が段ボールを製造する。「時津北運輸」が段ボール製品の運送及び原紙引取等を担当し、各県へ配送する。産業廃棄物処分業の「松本紙店」が古紙回収を行い、古紙は

「時津北運輸」が「王子マテリア」へ運び、リサイクルされる。

(2) 日本の段ボールの回収率は 9 5 % 以上であり、各家庭や企業における分別と古紙回収・製紙・段ボールの 3 つの業界が一体となって資源循環を支えている。

4 工場見学

見学に当たり、安全帽・安全ベスト・リスナー（音声受信機）を渡され、各人着用した。



写真 1：工場見学状況 1

(1) コルゲータ見学

コルゲータは貼合工程を担当し、幅が 1. 8 m、全長 1 0 0 m の段ボール製造工程の要である。

工程の概要は次のとおり。

- ・片面段ボールを作る（A/Cフルート）
 - ・片面段ボールを作る（Bフルート）
 - ・片面段ボールの段頂に糊を付ける
 - ・片面段ボールと表ライナを接着する
 - ・必要なサイズに切断し、罫線を入れる
 - ・所定の寸法に切断されたシートとなる
- A、B、C、Wフルートの厚さは、それぞれ 5 mm、3 mm、4 mm、8 mm である。

(2) フレキシフォルダーグルア見学

本設備には、4 色印刷と 3 色印刷があり、

- ・4 色固定紙器印刷設備は、小ロットから大ロットまで幅広く対応でき、多用する顧客のニーズ

に込んでいる。

・3色印刷設備は、高精度印刷と優れた折れ精度を実現し、高い生産性を有する。最新の画像検査装置も導入しており、高品質段ボールケースを生産している。



写真2：工場見学状況2

段ボールの印刷はフレキソ印刷と呼ばれる凸版印刷方式が主流である。

(3) ロボットパレタイザー見学

通常のA式（0201型）のみならず、平板のシート積み上げ機能も併せ持つ段ボールケース積み付けロボットである。

(4) オートプレスⅡ見学

高精度平板抜き打ち機で、給紙部のカメラにより±3mmの誤差を補正できる。

(5) デジタル印刷機見学

大型のLED—UV硬化フラットベッド方式のデジタル印刷機で、フルカラー印刷やグラデーションなど多彩な表現が可能で、段ボールへのダイレクト印刷することができる。

(6) 体験

見学の最後に、見学者へ段ボールが配布され、それを組立てて鉛筆立を作成し、各人持ち帰った。

【所感】

(1) 災害後の避難場所での段ボール製ベッ

ド、パーテーション、簡易トイレ等は非常に有効な手段であると感じた。

(2) 当工場は紙に延性を持たせるためと糊を乾燥させて澱粉を固化させるための熱源としてボイラーを保有しており、自主的にばい煙の測定を実施している。また、騒音にも特別に配慮している。

さらに、工場及び事務所の屋根には太陽光パネルが設置され、ゼロカーボン対策が実施されているなど、環境への配慮が行き届いていると感じた。

令和7年度第4回CPD研修会報告

(株) ペック 理事 田嶋 博文 (農業)

令和8年1月28日（水）に長崎県支部第4回CPD研修会が、会場とWeb併用によるハイブリッド方式で開催されました。その概要を報告します。

・開催場所：諫早商工会館

・出席者：会場27名、Web10名

演題1 「技術者の生命倫理」

【講師】日本技術士会九州本部倫理委員会
岩見 裕子氏



写真3：岩見祐子講師

近年の急速な技術革新に伴い、医療分野に留まらず生物工学等の広範な領域で重要度が増している「生命倫理」について、iPS細胞やES細胞

胞といった具体的な研究例を引き合いに、技術士として持つべき倫理的観点や行動規範について講演いただいた。

【講演内容】

技術革新により、生命倫理（バイオエシックス）は現代の技術者にとって避けて通れない課題となっている。特に再生医療における ES 細胞と iPS 細胞の特性の違い、およびクローン技術規制法などの国内法・ガイドラインの遵守について詳説された。また、ゲノム編集（CRISPR/Cas9）に伴うリスクや「デザイナー・ベビー」の是非といった今日的な課題も提示された。研究不正への対応を含め、技術者は科学者コミュニティにおける相互評価や、誠実な履行、人道的な視点を常に持ち続けることが求められている。

【感想】

技術的な進展と倫理的判断は、命と人生に直結する極めて重要なテーマであると痛感しました。技術が高度化するほど、倫理的な判断の見直しが不可欠となり、この分野に携わる専門家の方々の並々ならぬご苦労が垣間見えました。

技術者として、専門外の分野であっても生命倫理という普遍的な課題にアンテナを張る重要性を強く認識しました。

演題2 「ウルグアイにおける活動（獣医病理学指導を中心として）」

【講師】 ウルグアイ共和国大学名誉教授

山崎 寛治氏

ウルグアイ共和国大学獣医学部における若手研究者への病理診断技術および論文作成の指導活動を通じた国際貢献の事例を紹介いただき、正確な病理診断が予防医療や動物の健康、ひいては社会の安全に果たす役割の重要性について講演いただいた。

【講演内容】

講師がウルグアイで約 10 年間従事した、死後解剖や生検材料を用いた診断技術指導の取り組みが報告された。正確な病理診断は死因を特定し、予防医療を可能にする重要なプロセスである。

講演では毒性学（トキシコロジー）の基礎についても触れられ、化学物質の用量と毒性の関係について、パラケルススの格言を交えて解説があった。



写真4：山崎寛治講師

講師は現在もリモートワークで現地の学生を支援するなど、継続的に交流されている。地球の裏側で専門技術を活かして次世代を育成し、現地の学術発展に寄与された具体的な姿が示された。

【感想】

開口一番「私の話は面白くないですよ！」と仰って会場の緊張を解きほぐされたのが非常に印象的でした。ユーモアを交えながら語られるエピソードを通じて、講師の世界観や人生そのものを紹介していただいたように感じました。また、私の叔母もウルグアイで花の栽培に従事していた縁があり、講師から「日系移民の方々は幸せに暮らせていたように見えた」というお話を伺うことができたのは、個人的に非常に感慨深く、有難い講演となりました。

演題3 「ヘルスケアモニタリングのための生体ガスセンサの開発」

【講師】 長崎大学大学院総合生産科学研究科 准教授 上田 太郎氏

呼吸や皮膚から放出される微量の生体ガス (VOCs) を検知し、糖尿病やガンなどの疾患を早期に発見するための高感度センサ開発について、材料の微細構造制御や MEMS 技術といった最先端の研究アプローチとその社会実装の可能性について講演いただいた。



写真5：上田太郎講師

【講演内容】

生体ガスに含まれる ppb レベルの極微量な VOCs を高感度に検知するため、超音波噴霧熱分解法を用いた多孔質 SnO₂ 粒子の作製など、材料設計の最前線が紹介された。半導体式や吸着燃焼式など、それぞれのセンサ方式の特長を活かした開発事例が示され、将来的には家庭での日常的なヘルスケアや安全環境の維持に応用されることが期待されている。目に見えないガス情報を数値化し、身体に針を刺すなどの負担がない「非侵襲

(ひしんしゅう)」な方法で健康を管理する、日本のセンシング技術の可能性が示された。

【感想】

技術的な専門性の高さもさることながら、講師の研究に対する並々ならぬ情熱が強烈に伝わってくる講演でした。講演の途中で「この内容は説明が難しいんですよ……」と苦笑いされる場面に、研究者の誠実なお人柄や、自身の研究に対する矜持が滲み出て、深く感銘を受けました。

手軽に健康状態をチェックできるデバイスが、一日も早く社会実装されることを期待します。

全体を通して

今回の研修会では、生命倫理、国際協力、そして最先端のセンシング技術と、多岐にわたる分野の知見に触れることができました。技術が社会や人の命にどう貢献すべきかという視点が、各講演を通じての共通項だったと感じました。

専門分野の枠を超えて、技術者としての倫理観や情熱、姿勢を学ぶことができ、今後自らの業務への向き合い方を再考する、有意義な機会となりました。

今回のような貴重な知見を共有できる機会が、今後さらに多くの技術者に広がることを切に願います。(了)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

1. 新入会員紹介 (2月、3月役員会承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	志方宏敏	建設	佐世保市土木部 道路整備課

2. 令和8年度版の会員名簿を作成準備中です。所属、連絡先変更や追加部門等がありましたら情報配信局までお知らせください。

3. 創立50周年記念誌は3月末に完成し、現在、会員に配布又は送付中です。遅くとも4月10日までは全ての会員に届くように務めております。もし届かない会員がおられましたらお知らせください。届くように手配いたします。

編集代表&連絡先

N. ソノダ技術士事務所 代表 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com